

早急に、高浜原発3・4号の再稼働に反対を表明してください

福知山市の回答

- クレーン事故の改善策について、納得できなければ、再稼働には反対
- クレーン事故問題は、4月7日の京都府7市町地域協議会では決着していない
- 改善策を練り直し、具体化するように、地域協議会で関電に伝えている
- 次回会合はまだ決まっていない



福知山市訪問の4月28日、関電は高浜4号にMOX核燃料の装荷を始めました。その3日前25日に、福井県知事が「クレーン事故の総点検結果」を含めて再稼働を了承しています。今回の訪問は、差し迫った再稼働を止めるために「福知山市として高浜3・4号再稼働に対する反対表明の要請」が一番の目的でした。

福知山市は人口79,000人余りで、そのうち467名が高浜原発から30km圏内（UPZ）に暮らしています。福知山城を中心に周囲を山に囲まれた緑豊かな閑静な町でした。

申し入れの対応は危機管理室長、次長、防災安全係長の3名で1時間強の話合いになりました。



◆関電のクレーン事故改善策について、京都府30km圏内7市町は納得していない

関電は4月7日に「総点検結果」を出し、「第3回高浜発電所に係る地域協議会幹事会」でクレーン事故を踏まえた対策を説明しました。しかし、その改善策は抽象的で納得できず、次回（日程は未定）までに具体化するように求めているそうです。クレーン事故では気象警報が把握されておらず、必要な処理など基本的なことができていないことや京都府を置き去りで福井県優先の説明など第3回幹事会でも各市町から厳しい追及があったようです。関電の改善策の中には「暴風については日本気象協会からFAXを受け取ることにした」というものもあり、こんな企業が原発を動かすのかと私たちも呆れました。

福知山市長は「事故対策ができなければ原発を動かすべきではない。原発という施設で1年に3回も事故が起こるといっては許されない」と語っていると室長が話してくれました。話し合いの中で、「クレーン事故の改善策について、納得できなければ、再稼働には反対です」と述べられました。また、「クレーン事故問題は、4月7日の地域協議会幹事会では決着していない」「改善策を練り直し、具体化するように、地域協議会で関電に伝えている。次回会合の日程はまだ決まっていない」と、厳しい姿勢を示されました。

◆事故が起こればUPZ467人の避難では済まない。全市民の避難は不可能

住民の避難については開口一番「これは悩んでいるところ」と言われました。「国はUPZ圏内3自治会（実質は5自治会）だけの避難計画を義務づけているが、UPZ圏外もUPZに準ずる計画が必要だと考えている。市内で対応ができない場合は広域避難の必要がある。福知山市の広域避難先は兵庫県上郡町。以前から交流し、バスを用意して団体に訪問もしたが、UPZ500人弱を受け入れるだけでやっとの小さな町だった。全市避難ができる場所ではない。『全市避難の恐れがある』では話は進まない。その時には国の支持によって広域連合で措置してもらおうとしか言えない。」ということでした。



市民から、福井からの避難中継場所が住民の屋内退避場所になっていることや福知山市のUPZは2013年台風の浸水地域だったこと、関電は複合災害を考えず全ての対策が十分に機能する場合の予測しかしていないことなどを指摘しました。

◆安定ヨウ素剤は病院2箇所での備蓄が現時点では最適と考えている

福知山市では安定ヨウ素剤は、UPZ内の病院に備蓄しておくことが、誤飲による副作用を防ぐ観点で最も適切と考えており、事故から放射能漏れまでの間に避難場所だけでなく各戸訪問も含めあらゆる手立てを使って配布することになっているということでした。これに対しては申し入れに参加した避難者が、薬の飲み合わせ以外重篤な副作用の心配は無くそれよりも甲状腺がんの方がずっと問題であることを避難の体験や小児甲状腺がんの実態とともに語ってくれました。市側は熱心に話を聞き、受け止めてくれたものと感じました。予定の時間を過ぎてしまい、ヨウ素剤の配布については明確な返事を聞けませんでした。話合いの最後に室長から「今日はありがとうございました」ということばを頂きました。

終始誠実で丁寧な対応を受け、福知山市の危機管理室は原発再稼働に対して事故を心配し、住民をどう守るのかまじめに考えていることがうかがえました。

2017年5月2日

避難計画を案ずる関西連絡会 参加者一同

